

ひとを育て、「自治」をつくる公民館

—公民館とは何かを考えるために—

牧野 篤

(東京大学大学院教育学研究科)

1. 人の本質とは？

Well-being (ウェル・ビーイング) :

よりよく生きる？ (positive)

よりよくいる？ (存在)

よく在る？ (状態)

そう在るようにして在る (常態)

そう在るようにして在らしめられる (passive)
そう在るように受け入れあう

「ふるさと」をどうつくるのか



コロナ禍で起こった「恩送り」

地域の高齢者を心配して布マスクを縫って届けた中学生たち

校区の子どもたちのために布マスクを縫って配付した高齢者住民たち

⇐互いに相手を慮って、うれしかった！！

「恩送り」：自分への見返りを考えずに、相手にとって「よきこと」をする
⇐基本的に、次の世代を育むこと＝社会をつなげること

私たちが社会をつくっていることの基盤
Compassion

⇒Compassionate Community (苦しみ・悲しみを分かちあう社会)

相手への想像力、「よきこと」に気づく、実践する

2. 社会教育の概念を問う

教育基本法（旧法）（1946年制定）

第七条（社会教育）

家庭教育及び勤労の場所その他社会において行われる教育は、
国及び地方公共団体によつて奨励されなければならない。

2 国及び地方公共団体は、図書館、博物館、公民館等の施設の設置、学校の施設の利用その他適当な方法によつて教育の目的の実現に努めなければならない。

社会教育法 （1949年制定）

第二条 この法律において「社会教育」とは、学校教育法（昭和二十二年法律第二十六号）又は就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律（平成十八年法律第七十七号）に基づき、学校の教育課程として行われる教育活動を除き、主として青少年及び成人に対して行われる組織的な教育活動（体育及びレクリエーションの活動を含む。）をいう。

教育基本法（現行法）（2006年制定）

（社会教育）

第十二条 個人の要望や社会の要請にこたえ、社会において行われる教育は、国及び地方公共団体によって奨励されなければならない。

2 国及び地方公共団体は、図書館、博物館、公民館その他の社会教育施設の設置、学校の施設の利用、学習の機会及び情報の提供その他の適当な方法によって社会教育の振興に努めなければならない。

（生涯学習の理念）

第三条 国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない。

第4期教育振興基本計画（2023年6月閣議決定）

基本コンセプト：

「持続可能な社会の創り手の育成」

「日本社会に根ざしたウェルビーイングの向上」

「我が国の将来を展望したとき、
教育こそが社会をけん引する駆動力の中核を担う営みであり、
一人一人の豊かで幸せな人生と社会の持続的な発展に向けて
極めて重要な役割を有している。」

社会教育は、
本計画において、
改めて地域コミュニティを基盤とする社会の土台である
人と人との「かかわり」や「つながり」の土壌を耕しておく
という役割が強調され、
それが社会の持続可能性およびウェルビーイングと
結びつけられている

**社会教育が土壌を耕すことで、
この社会が豊かな基盤をつくることになり、
それが防災や福祉、産業振興、文化交流など、
いわば首長部局の一般行政が有効に機能することにもつながることが指摘**

**少し踏み込んだいい方をすれば、
一般行政の社会教育化とでも呼ぶべき方向性が示されている**

**「学び」による住民自治を
社会により深く実装することが求められる時代となったとの認識**

3. 戦後の公民館構想と受けとめ

「公民館は全国の各町村に設置せられ、此処に常時に町村民が打ち集まつて談論し読書し、生活上産業上の指導を受けお互いの交友を深める場所である。」

「この施設は上からの命令で設置されるのではなく、真に町村民の自主的な要望と努力によつて設置せられ、又町村自身の創意と財力とによつて維持せられてゆくことが理想である。」

（文部次官通牒別紙「公民館設置運営の要綱」）

「近代の最も大なる発見は社会である。そして自己とは社会における自覚的個性の存在であり、社会我である。社会の中に自己を見出すと共に、自己の中に社会を見出すことが近代の特徴であり、現代人の任務である。そしてこれこそが「人の人たる所以」である。」

**(寺中作雄「公民教育の振興と公民館の構想」、
『大日本教育』1946年1月号、3頁)**

⇐compassion 人を慮る力

**第一に公民館は一の社会教育機関である。
第二に公民館は一の社交娯楽機関である。
第三に公民館は町村自治振興の機関である。
第四に公民館は産業振興の機関でもある。
第五に公民館は新しい時代に処すべき青年
の養成に最も関心を持つ機関である。**

(寺中作雄『公民館の建設—新しい町村の文化施設』、
公民館協会、1946年、18-27頁)

**「昭和二十一年九月九日教育民生部長から公民館の
設置と運営について・・・通牒を受けました。」「その
[公民館の一引用者]設置遂行こそ郷土文化の発展新
日本の平和的文化国家再建の理想を実現する鍵であ
る。而して徹底せる郷土の民主化によつて新しき時
代の先駆者たるこそ村人の待望する再び築く母村の
栄誉と確信致します。」**

（前島頼輔「公民館の発足に当りて」、
『竜丘村公民館報』第1号、1948年3月1日、1頁）

4. 地域をつくる公民館・社会教育



小和田武紀『公民館図説』、岩崎書店、1954年、9頁・11頁

民主主義の訓練場



文化交流の場



産業振興の原動力



産業振興の原動力





村の茶の間です

親睦交友を深める施設です

次世代の育成

社会教育に「目的」はない

社会教育がしっかりしていると、「目的」が生まれる

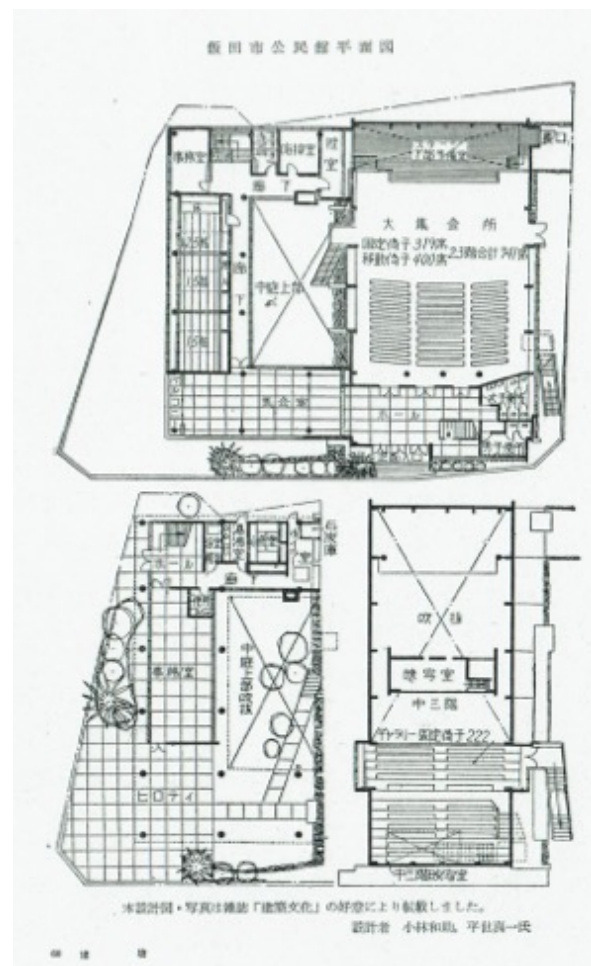
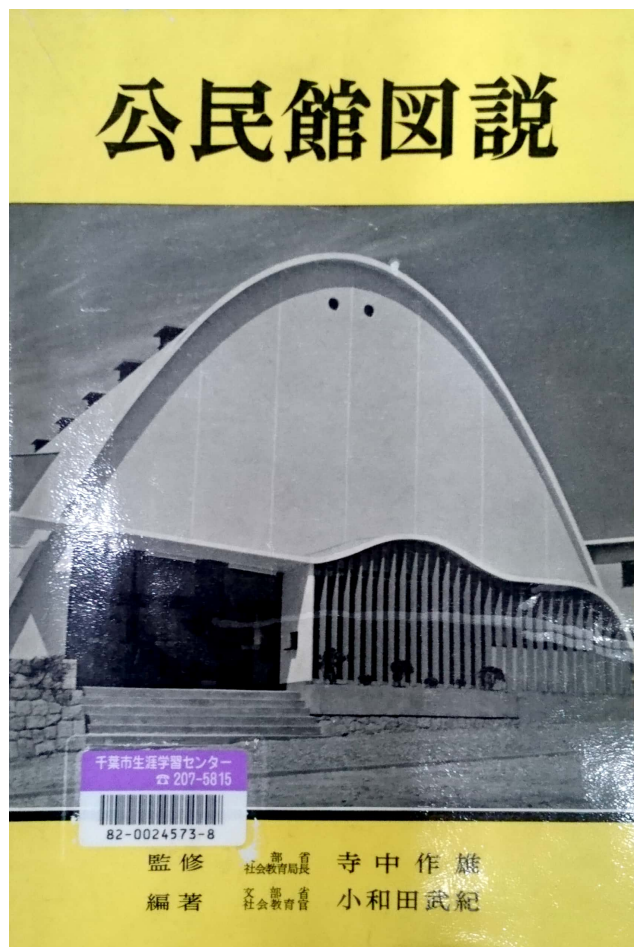
一般行政は、社会教育の基盤の上で、有効に機能する

敢えていえば、

社会教育は「社会」を永続させるための営み

5. 苦悩する公民館

民主的建築様式：豪華になる公民館



逆風に晒される公民館：制度化されることで低迷する

「昭和二十七年秋、地方教育委員会が全国的に設置されたが、これも公民館運動にとっては、一つの打撃であった。従来、熱心にこの運動を推進してきた市町村長を、公民館から隔絶する結果となったからである。……教育委員会の設置によって、教育行政が一般行政から離れるとともに、財政的措置の不じゅうぶんが目立ってきた。……公民館に直接責任をもつ教育委員会は、学校教育とくに義務教育の整備に追われて、公民館への関心が退潮しはじめた。教育委員会全般にみられる学校教育偏重の姿勢は……公民館の全面的な進展をはばんでいる。」

（社団法人全国公民館連合会『公民館のあるべき姿と今日的指標・総集版』、
社団法人全国公民館連合会事務局、1982年、30頁）

日本の公民館数の推移

公民館数 日本

年	公民館数	
2015年	14,171 館	
2011年	14,681 館	
2008年	15,943 館	
2005年	17,143 館	
2002年	17,947 館	
1999年	18,257 館	
1997年	-	
1996年	17,819 館	
1995年	-	
1994年	-	
1993年	17,562 館	
1992年	-	
1991年	-	
1990年	17,347 館	
1989年	-	
1988年	-	
1987年	17,440 館	
1986年	-	
1985年	-	
1984年	17,520 館	
1983年	-	
1982年	-	
1981年	17,222 館	
1980年	-	
1979年	-	
1978年	16,452 館	
1977年	-	
1976年	-	
1975年	15,752 館	

出典：統計ダッシュボード / 社会・人口統計体系

減少する公民館数

1950年代半ばからの高度経済成長
都市部への人口集中
一億総サラリーマン化

「ふるさと」づくりから企業戦士へ
学校中心の社会へ

公民館・社会教育は講座・教養へ

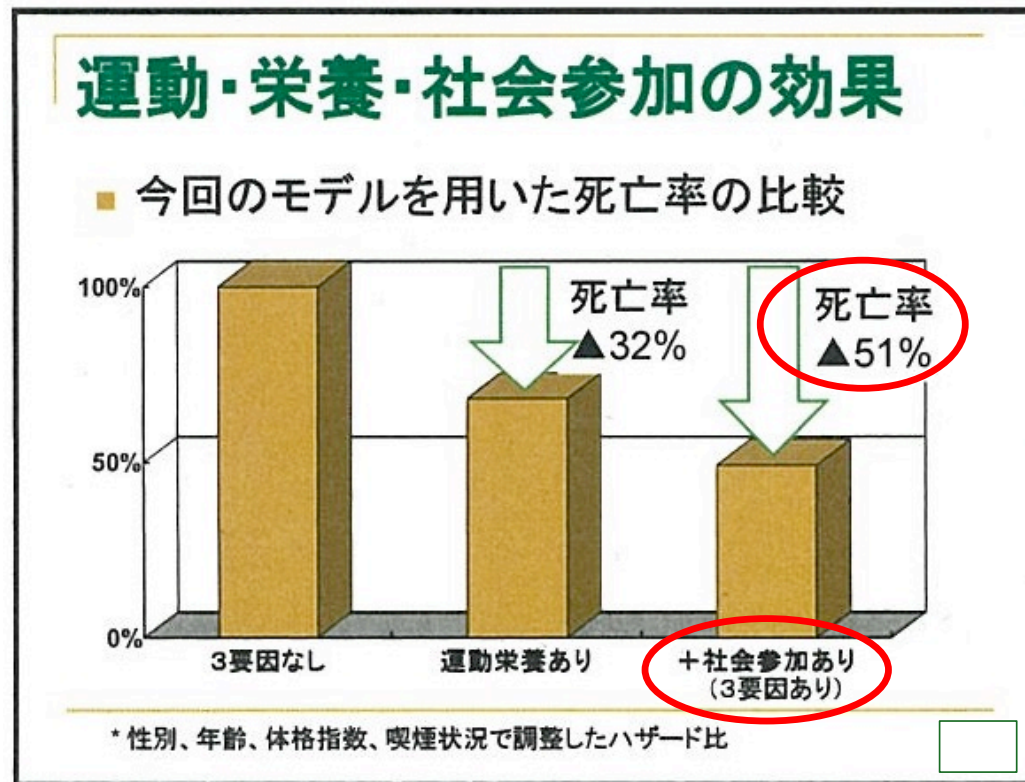
<https://statdb.me/community-centers/00000/>

6. 「かかわり」が大切な社会へ

静岡県高齢者コホート研究

【高齢者14,001人の追跡結果】

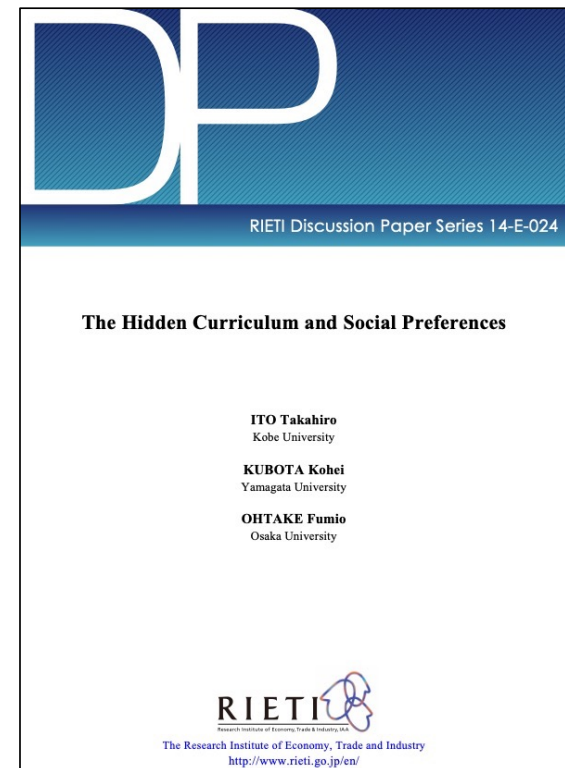
○運動・栄養について良い習慣を持つこと、更に**社会参加**により死亡率が大幅に低下



出典:「静岡県高齢者コホート調査に基づく、運動・栄養・社会参加の死亡に対する影響について」
2012年、東海公衆衛生学会、平山朋他

小学生時代にボランティアなどの
経験を積んだ者は社会貢献意識が高まる

参加・協力を経験した子どもは、
他者のために行動することを好み、
利他性と互惠性が高まり、
他人への協力を好み、
国への誇りを持つようになる傾向がある



人は「かかわり」の存在

7. 焦点化されるコミュニティ

しぶとく生き残った公民館

⇐**住民生活と密着して、戦後初期の構想を実装している公民館**

戦後初期の構想とは：

住民が「ふるさと」を自分事とする

住民が「ふるさと」の担い手となる

互いに感情を交流させて、プライドを持つ

「公民館が欲しくて欲しくてたまらなかった」

「公民館はコミュニティの中核施設というような、公民館活動にしても町会活動にしても一緒だし。」

「公民館は必要でしょうね。これが無いとやっぱり、地域のまとまりというのがバラバラになってしまいますね、はっきり言って。……そうすると、町会組織というものもバラバラになってしまう。……[町会の役職を一引用者]一年で回してもちゃんとまとまりがあるというのは、こういうもの[公民館のこと一引用者]があるからですね。」

「一つのシンボルですからね、この公民館の建物自体が。……みんなの意識とすれば、やっぱり、ここは自分たちのお城でありたいという気持ちは持っていると思いますね。」

(東京大学大学院教育学研究科社会教育学・生涯学習論研究室内灘町社会教育調査チーム
『地域密着型公民館の可能性ー内灘町公民館調査報告ー』[学習基盤社会研究・調査モノグラフ5]、
東京大学大学院教育学研究科社会教育学・生涯学習論研究室、二〇一三年八月)

「公民館をやる」

「公民館をやつとると、地域のことが、よくわかってくるんですわ。」

「分館やつとるとね、この人がここに適任だとか、あの人がここがいいとか、ね。」

「分館をやつてて、よかったことはね……。」

(飯田市と筆者の研究室との公民館調査共同研究 (2010年3月～2016年6月)
における住民の発言より)

コミュニティと「学び」が焦点に

**⇐日本社会は明治以降、国の枠組みが動揺すると
コミュニティが政策的ターゲットになる**

総務省：地域運営組織・地域生活総合支援サービス

厚生労働省：地域包括ケアシステム・地域共生社会づくり・孤独孤立防止

国土交通省：国土強靱化・防災訓練・孤独孤立防止

まち・ひと・しごと創生会議：小さな拠点

経済産業省：未来の教室、半径50センチ革命、STEAMライブラリー

農林水産省：農村地域づくり事業体

文部科学省：コミュニティ・スクール、地域学校協働活動、GIGAスクール

全国社会福祉協議会：福祉教育から社会教育へ

政府：人生100年時代構想会議

主要テーマ：学び直し・リカレント教育

世界的課題・社会の構造的変化

根源的危機の時代

**これを人々の日常生活で引き受けざるを得ない
⇒地域社会でどう受け止めるのか**

コミュニティと自立が課題化

どれも 〈学び〉を基盤にしないと機能しない
〈学び〉が社会の基盤となる

「学び」とは人がつながるプロセス

平田オリザさんの話

芸術・文化そのものの効能

コミュニティ形成や維持

直接的な有用性

公共財・つながり・共通善



恩送り



社会的処方
(居場所・出番)

文化による社会的包摂



当事者性・プライドが
ものをいう

つながり



当事者性

プライド

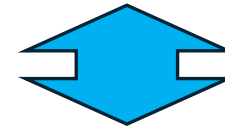
自己有用感



サービス（お客様扱い）は
当事者性・プライド・自己有用感
＝生きる意欲
を奪う暴力



問題は事件が起こる前に
起きてしまっている
それが後から露わになる



自己発見・新しい自分

Well-being

（幸せを感じられる状態にある）



問題が起こらない社会

過疎地三つの空洞化（小田切徳美：明治大学農学部）

人の空洞化

土地の空洞化

集落機能の空洞化

⇒**誇りの空洞化** ⇒**集落の解体・自治の解体**

⇒**無住化**

人はともに寄り添うことで
コミュニティを保ち続けることができる

コミュニティはcompassionの「関係」

8. 当事者になるということ

「学び」と「人づくり」を一つなかりに

： 島根県益田市「人が育つまち」「人が輝くまち」

益田版カタリ場の種類

小学校カタリ場

小学生 × 高校生



「思春期」を終えた高校生から、
これから「思春期」の小学生へ

- 卒業前の高校3年生とこれから中学生の小学5-6年生によるカタリ場
- 小学生が、中学・高校生活の未来のイメージを描くことができる
- カタリ場を受けてきた高校生は、学業生活を終える最後に、自分が語り手として、小学生に語る

中学校カタリ場

中学生 × 地域の大人



「挨拶」の関係から、「相談」の関係へ

- 中学校区の地域の大人と中学生によるカタリ場
- 公民館と連携をして、地域の担い手がカタリ場に参加
- 地域で会う機会があるからこそ、しっかり関係をつくり、その後の地域での活動づくりのきっかけへ

高校カタリ場

高校生 × 企業の大人



ちょっと年上の先輩と、
ちょっと先の未来を描く

- 社会人の若手や大学生と高校生によるカタリ場
- 市内企業と連携をして、若手職員がカタリ場に参加
- 住んでいる地区を超えて、多様な大人との繋がりづくり、活動づくりのきっかけへ

少子高齢人口減少社会を「関係」から考える

集落を消滅の危機から救う「自給家族」



「源流米ミネアサヒCSAプロジェクト」

一般社団法人押井営農組合



以下、鈴木辰吉氏提供スライド/2022.9.17ソーシャルイノベーター研修自給家族.pdf

9. 価値多元化と共生のコミュニティへ

—誰にでも価値がある社会へ：アートを重ねる—

新しい発想で：アートを重ねる
(沖縄県那覇市若狭公民館)



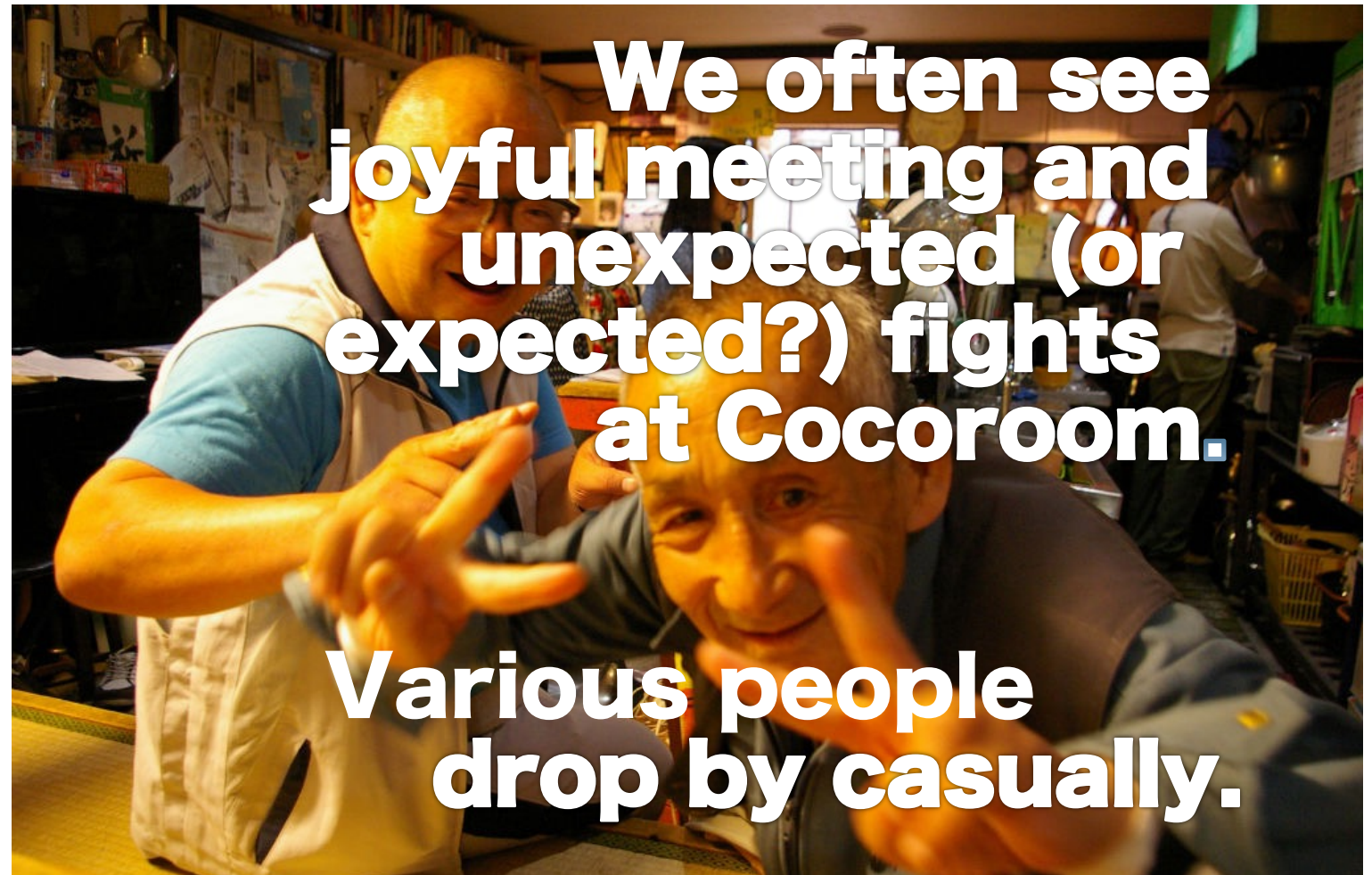
地域主体で 活動継続



コロナ禍における屋外での地域交流企画として月に一回開催



社会から取り残された人々がいきいきできる場所
:ココルームの取り組み



10. 「はまる」と、「育つ」



Maslow's Law



Jigsaw-puzzle model

上田假奈代「こえとことばとこころの部屋ココローム」、東京大学大学院教育学研究科社会教育学研究室主催公開講座「社会教育の再設計・シーズン3」における講義（第2回・2022年2月17日、オンライン）



ジグソーモデル

Jigsaw-puzzle model

「ひと」との「あいだ」に「はまる」

「はまる」と「ひと」との間に
力を引き出される

「ひと」の役に立てる
自分が変わる
「ひと」との「あいだ」が変わる

自分が「ひと」との「あいだ」で在る

「つながり」をつくる

「つながりたい存在」

「つながらざるを得ない状況におかれている」

「つながってしまっている」ことを分断してきたのでは

本来的に「つながってしまっている」ことを
どうWell-beingにつなげるのか

本来的にCompassionであるはず

ちいさなしあわせを重ねあう

11. Be-ingであることでDo-erになる

だれもが当事者になる

**一人ひとりが「はまる」「まきこむ」「つくる」媒介
By Allの主演**

自己決定・意志決定を基盤とする働き方

⇒Compassionate Community

⇒社会の地下水脈として

参加者全員が当事者になる

自分を尊重してもらえる
相手を尊重している

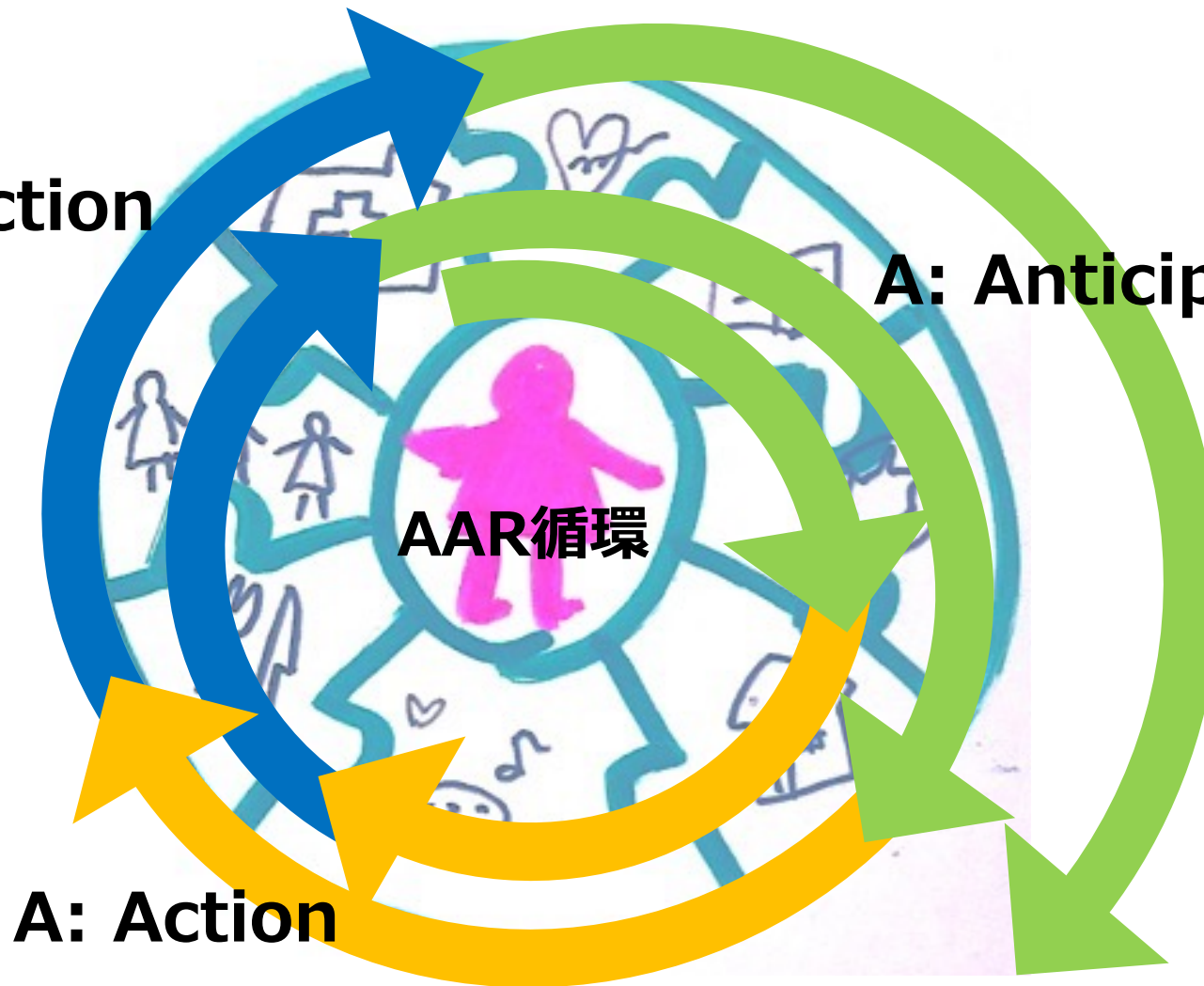
信頼感と想像力
AAR循環・代謝へ

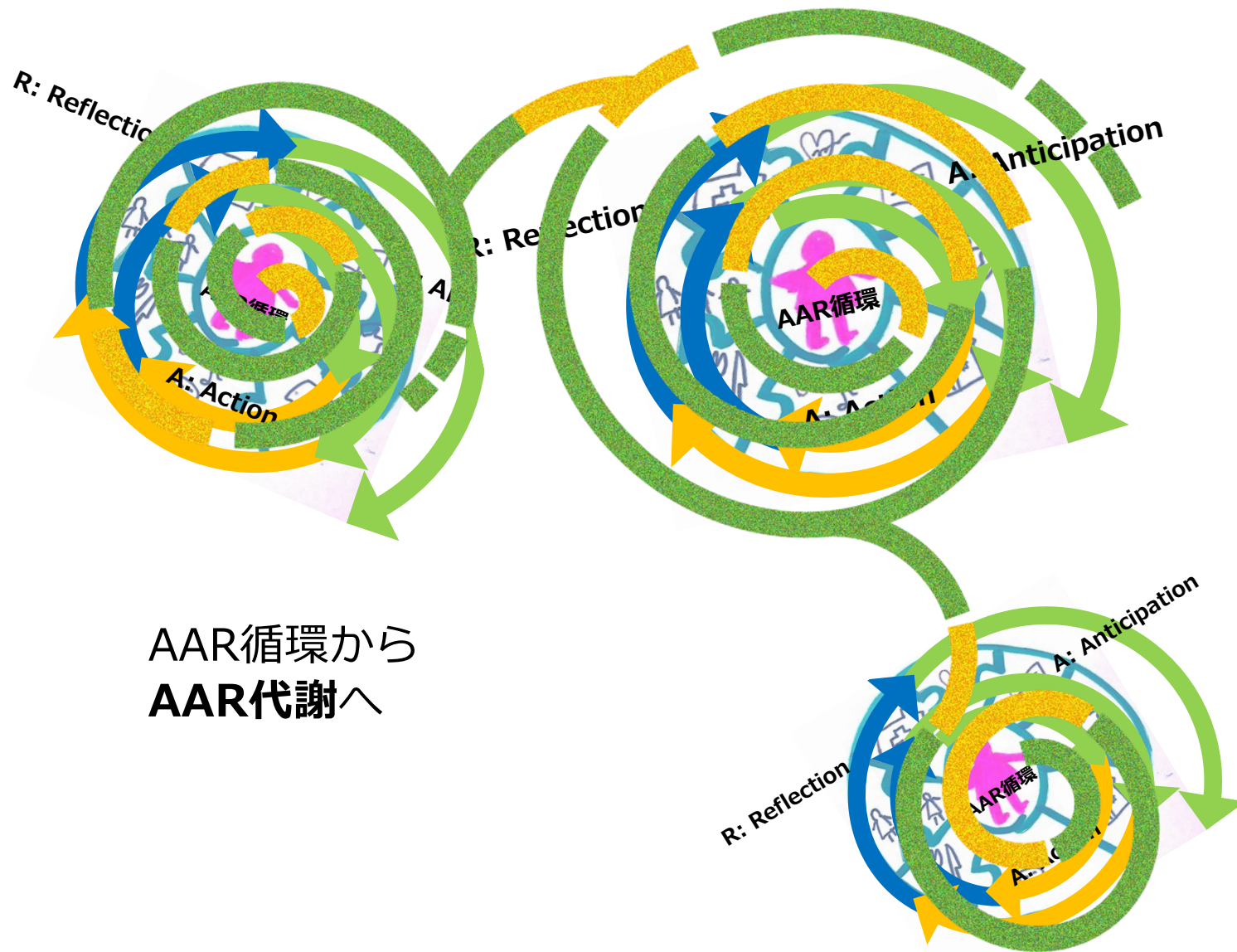
R: Reflection

A: Anticipation

AAR循環

A: Action





**Well-being : BeであることでDoであらざるを得ない
「はまる」ことで、周りから引き出される**

⇒ Do-er

Be-ing であることで Do-er になる

Well-being (幸せを感じられる状態にある)

よりよく生きる? (positive)

よりよくいる? (存在)

よく在る? (状態)

そう在るようにして在る (常態)

そう在るようにして在らしめられる (passive)

そう在るように受け入れあう

つながってしまっている私たちの本性を
改めて導き出す

まちづくり
Autonomy

学び
Education
Learning

問題が起こらない地域社会をつくる